

鉄道特性・公共交通の発展に向けて…

2島1貨への支援スキームは必須!

JR 連合第 12 回政策シンポジウム・香川県高松市で開催

10月17日、JR 連合第 12 回政策シンポジウムが、香川県高松市で開催されイーストユニオンより菅野委員長以下6名が参加した。JR 連合松岡会長、JR 四国半井社長、小川 JR 国会議員団事務局長等の参加のもと、『チーム公共交通』の輪を拡げ、『チーム地域共生創』の形成をテーマに講演、パネルディスカッションを行った。

特別講演①『四国気の一員として…』JR 四国半井社長の講演では、JR 四国は発足から高速道路との闘いであった。当時 11 km しかなかった高速道路網が現在は鉄道路線網とほぼ並行して走っている。H12 年を境に鉄道収入 (JR 四国/単 285 連 500 億) が高速道路収入と逆転した。観光開発 (着地) インバウンドの取り組みにより近年回復傾向にある。観光列車、「伊予灘ものがたり物語」や「アンパンマン列車」、さらに新観光列車「四国まんなか千年ものがたり」来年4月運行開始(2017/4/1)など地域と連携し「四国家の一員として」わさわざ四国にきていただける鉄道を目指して一生懸命がんばっている。今後、安定基金の積み増し、税制特例の継続等支援スキームが必須と訴えた。



特別講演②『チーム公共交通形成に不可欠な JR に期待される役割』加藤名古屋大学院准教授より今までの地域公共交通は、2つのパイ。商売(儲ける)、アリバイ(あれば良い)で本当に地域に必要なとされていたのか。地方分権が進んだ今、本当に必要とされる公共交通の維持・発展が必要。地域公共交通会議には構成員でなかった鉄道・DMV などが活性化再生法では対象に広がった。国が後方支援に回り自治体(市町村等)が主体となるスキームができた。要諦は利用者・自治体の

中に JR としてどう関わり活動を拡げ丁寧な対応が必要であるとの問題提起を行った。その後、パネルディスカッション『鉄道特性の発揮、公共交通の持続的な発展に向けて』と題して、・小川衆議院議員より、国政の立場から予算配分を含め2島問題を前向きに活動している。支援スキームが必要である。坂東高松市交通生活課長よりコンパクトな交通ネットワーク構築の取組。高速道路 IC 付近に新駅(琴電)設置、コミュニティバス乗り入れ等実施、効果をあげている。活性化再生法により自治体に活力が生まれてきた今、公共交通の発展に向けて JR(会社・組合)がその活動の輪に入っていくことが必要であり利用者も自治体もそれをまわっている。

JREユニオンは、地域公共交通を守るため

全国の JR 連合組合員とともに活動しています。